

# 大好きな趣味を楽しみながら暮らし続けたい ～ “自分らしく” がモットーの坂梨慶子さん～

## はるかぜ訪問看護ステーション



春日クリニックがかかりつけで、訪問看護と訪問介護を利用されている坂梨さん。「古い洋服や和服を全く別のものにリメイクする達人」です。様々なリメイクを楽しみながら、一人暮らしを続けておられる坂梨さんをご紹介します。  
(はるかぜ訪問看護 田中)



幼いころから手芸に興味を持ち、誰の教えもなく独学で編み物やパッチワークなどをしている坂梨さん。「作るのが楽しくて仕方ない」と、自宅にはミシンや手芸道具など多くの道具が揃っています。室内はパッチワークで作ったクッション、壁掛けなどが飾ってあり素敵なインテリアとなっています。

そんな坂梨さんは一人暮らし。3年前に大病をされました。現在は、訪問看護と訪問介護サービスを受けながら療養生活を続けておられ、大好きな趣味を楽しむまでにお元気になりました。

今回、坂梨さんご本人と京都にお住まいの娘さんから、それぞれにお手紙をいただきましたので紹介します。



2016年の4月に大病をしました。清田理事長のご紹介で、地域医療センターで手術を行う予定でしたが、熊本地震が発生したため、京都にいる娘の病院で手術を受けました。5か月ぶりに帰ってきた弱々しい私をみた理事長先生、院長先生の計らいで訪問看護を利用させてもらっています。先生方のおかげで命拾いをしています。現在は皆様のおかげで毎日趣味を楽しむまでに回復しました。娘、息子も離れたところに住んでいますので、先生方や看護師さん、ヘルパーさんに大変感謝しています。「具合が悪くなったらすぐに言ってね」「何かあったら連絡してね」というお言葉、大変心強く安心して過ごしています。  
今後ともよろしくお願いします。 坂梨 慶子



着物をリメイク♪シャツ&ベスト



スカートを2枚使っています



カバーやバッグ、パッチワークの作品もたくさんあります



母が手術をして、約1年半が過ぎました。今このような幸せな生活が送れるのは、春日クリニックの皆様のおかげと心より感謝しております。清田先生に母の変化を早期発見していただいた時期にちょうど熊本地震が発生し、私の住んでいる京都で手術をしました。術後3か月を経過して熊本に帰ってきました。その後すぐに訪問看護、訪問介護を利用できるようにしていただき、そのお陰で安心して毎日の日々を過ごすことができます。昨年夏、夜中に急に体調が悪くなり所長の伊原さんに連絡し病院まで連れて行って下さいました。なんと深夜1時の出来事、本当に感謝しました。母はいつも電話で春日クリニック、訪問看護の皆さんのことを楽しそうに話します。恥ずかしながら私も医療者の1人です。一時は仕事を辞めることも考えましたが、こうして今仕事を続けていけるのも皆様のおかげです。本当にありがとうございます。そしてこれからもよろしくお願いします。 河南 真佐子